

釜石商工高校魅力化推進事業 実施報告

昨年11月19日、(株)日本かきセンターの久保農也さんを講師に、1年生88人に向けて講演いただきました。釜石商工高校の魅力化推進事業の目的は、釜石を離れて戻ってきた、もしくは全く違う場所から釜石に来て働いている人生の先輩から話していただき、生徒が釜石の魅力を見出すことです。今回は久保さん自身が釜石商業高校出身ということもあり、生徒たちは先輩が話す内容に興味津々でした。

基調講演は、久保さんが一方的に話すのではなく、質問に対して生徒が3色の画用紙(赤・青・黄)を使って回答する参加型で行われました。久保さんの高校生当時の様子や、東京で働いていた頃の様子を写真で生徒に分かりやすく説明。「市外に出て、改めてカキ、ワカメ、ウニといった釜石の水産物の質の高さを感じた」と釜石の魅力を伝えていただきました。

昨年11月、12月に予定していた講演会および釜石コンパスは新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止となりました。現在は、代替となるプログラムを学校とともに計画しています。



問い合わせ 市総合政策課 オープンシティ推進室 ☎27-8463

高校生の探究活動紹介

釜石高校では、1、2年生が合同で探究活動を進めています。その中で、学校の外に出て地域の皆さんに協力をいただきながら実践できたグループを紹介します。

写真は、昨年11月21日に栗林町「くりりんの森」で行われた子ども広場イベントの様子です。防災ゼミグループの非常食に関する研究をしているチームが、子どもたちと一緒に防災おやつ(かんぱんチョコボール)を作っているところです。このチームは「非常食を普段から口にすることがないことによる、非常食へのストレスを軽減したい」という問題意識を持っていて、非常食を日頃からおいしく食べるためのレシピを考案しています。

今回は(一社)三陸ひとつなぎ自然学校に協力いただき、それを実践することができました。小学生以下の子どもでも簡単に作れるおやつで、皆とても楽しんでいた様子が印象的でした。その他、釜石高校の生徒たちの研究テーマは多岐にわたっています。

今後の活動がさらに発展するよう、コーディネーターとして、アシストしていきたいと思っています。



市教育魅力化コーディネーター 恒屋 つかや

どいじり 土井尻明子おもしろオペラ公開講座

～きほんの「キ」&椿姫プレ～ 開催のお知らせ

かまいしの第九でソリストを務めるソプラノ土井尻明子さんによるオペラ公開講座。

オペラの歴史、鑑賞方法、ブラーヴォ!の正しい使い方など、オペラのきほんの「キ」を学べる他、オペラの名曲を楽しめるコンサートです。

※本事業は第9回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞の助成を受けて実施します



土井尻明子さん (ソプラノ)



松岡幸汰さん (テノール)



松岡なぎささん (ピアノ)

出演	土井尻明子 (ソプラノ) 松岡幸汰 (テノール) 松岡なぎさ (ピアノ) 須賀力哉 (ナビゲーター) 及川 泰生 (バリトン・岩手大学)
日時	1月31日(日) 開演14時(開場13時15分)
場所	釜石市民ホールTETTO ホールA ※ソーシャルディスタンスを考慮し372人までの入場とします
入場料	全席指定 一般1,500円、高校生以下500円(当日各200円増) ※未就学児の入場はご遠慮ください
チケット取り扱い	釜石市民ホール 東山堂釜石事業センター イオンスーパーセンター釜石店 シーサイドタウンマスト 他

チケット
好評
発売中

問い合わせ 釜石市民ホールTETTO ☎22-2266

岩手大学釜石キャンパスだより

小川智 岩手大学長 対談 野田武則 釜石市長



野田市長(左)と小川学長(右)

釜石キャンパスの設立に尽力され、令和2年4月から岩手大学長を務める小川智学長と野田市長が今後の展望を語り合いました。

「沿岸に大学がある」といって

野田市長

岩手大学から震災後いただいた支援や釜石キャンパスの設立、心からお礼申し上げます。自然環境の変化は、漁獲量の低迷という形で地域経済を直撃しています。新たな水産資源として進めるサクラマスの海面養殖研究をはじめ、岩手大学の研究と今後も強く連携させていただければと思います。

小川学長

「沿岸に何か貢献を」という意識を本学ではずっと継続しています。震災前には湾口防波堤など土木的な協力が主でしたが、震災が起



サクラマスの海面養殖の視察

「農学部を持つ以上は水産分野も扱わなければ」という岩瀬前学長の強い思いで釜石キャンパスの設立に取り組まれました。当時、学生が居住する雇用促進住宅の改修や研究棟建設の支援を野田市長にご決断いただきました。これは非常に大きなことです。上田キャンパス(盛岡市)以外に学生を送るのも開学以来初めてですし、こまめ地域と一緒にキャンパスを作り上げたことは学校の歴史の中でもそう多くないと思います。

野田市長

当時、釜石に大学と学生さんが来ることは夢のようだったと思います。学生の皆さんが学ぶように、我々も若い皆さんの考え方や取り組みから大いに学んでいます。より地域とのコミュニケーションを強めていただき、相互発展を期待しています。

小川学長

今年卒業した1期生も釜石で就職していますし、現在就職活動中の2期生の中にも釜石エリアで内定をいただいた学生が何人もいると聞いています。ある1期生が入学して間

もなく「沿岸でやっていけそう?」と尋ねたら「私たちは早く沿岸に来たいんです」と返ってきました。さすが、釜石キャンパスを志望する学生は、海のある所で過ごし、学びたいのだなと感じたことを思い出します。

野田市長

沿岸に水産システム学コースを設置いただいたのは歴史的な転換点です。街の活性化の面でも大変感謝しています。これからも全市を挙げて支えていきたいと思っています。

釜石の未来を担う若者に

小川学長

街の活性化の意味でも、釜石の高校生の皆さんもぜひ本学に進学いただき、水産を勉強し、沿岸で活躍してほしいと思います。現在は、各地から集まった学生が釜石を気に入って居住しているという傾向ですが、釜石出身の学生たちもぜひ育てたいですね。

野田市長

これまでは地元の企業や家業を継ぐことよりも、都会に魅力を感じる人が多かったかもしれません。我々も釜石の魅力を発信して、U・Iターンしていただけるよう力を入れます。地元で活躍する社会人の話を高校生が聞く「釜石コンパス」や、本年設立した「しごと・くらしサポートセンター」を活用して「釜石で働きたい」という思いをサポートします。地元で学んだ人たちが、学んだ土地で働けるという結果につながればと思います。

小川学長

本学ではインフラ整備を最優先課題としていて、(株)NTTドコモの協力のもと釜石キャンパスに5G(第5世代移動通信システム)の基地局を建設しました。コロナ禍もあり「先端技術で大容量のデータを遅延なく送れるのであれば、必ずしも都会で働くなくても」という意識が広まり学生たちの動きも変わるのではないかと思います。

野田市長

「地方でもさまざまな活動ができるんだ」という視点、非常に大事だと思います。

学長から市民の皆さんへ

小川学長

本学と学生を受け入れていただき本当に感謝しています。大学生という、これまで市内に少なかったタイプの若者が釜石で生活しています。日常生活や研究の面で色々お世話をおかけするかもしれませんが、温かい目で見守っていただき、折々一緒に活動させていただければ大変幸いです。



水産関係をはじめ、各所で学生との交流が生まれました